〝健康づくり〟は食生活の充実から！

ランチルームでの初めての給食(1/9:　岩室小学校にて)

文部省および日本体育・学校健康センター、新潟県教育庁保健体育課から委嘱を受け、平成五・六年度の二年間にわたり進めています「学校給食における学校・家庭・地域の連携推進事業」。

昨年の十一月十一日には、その経過・実践報告会と県立新潟女子短大の岡田玲子教授による記念講演会が行われたことは、「広報いわむろ平成六年十二月号」でもお知らせしました。

今号では、同事業における二年間の取り組みの一部を、皆さんにご紹介したいと思います。

学校・家庭連携部会の取組

学校給食が児童・生徒の心身の発達に及ぼす影響の大きさを踏まえ、以下の取組を行ってきました。

①給食指導の充実…給食センターとも連携し、各学校の実情に合った給食指導を行うとともに、学校での特別活動及び教科等との関連を図った給食を行う。

②交流給食…お花見給食や七夕ふれあい会食、サラダパーティー、学年内交流給食など、異学年が一緒に楽しい雰囲気の中で食事をすることを通して、温かい人間関係を育てる。

③親子料理教室…学校給食の人気メニューを親子で一緒に作ることで、親子のふれあいを図るとともに、心と体を育む食事の大切さを理解する。

▲親子で料理づくりに挑戦！

④収穫祭…学校農園の生産物（モチ米、さつまいもなど）の収穫祭を行うことで、農作物を作ってくれる人への感謝の気持ちと食糧の大切さを学ぶ。

⑤試食会…父母・祖父母を対象に試食会を行うことで、給食への理解を深めてもらう。

⑥その他…文化祭のときに、各校に学校給食コーナーを設け、日本食の良さをPRするパネルを展示したり、「給食センターの一日」と題したビデオを放映したりして、地域の啓発を行う。

◇　◇　◇

各学校の給食主任の先生からは、「この事業を通して、米食への関心や健康への志向が高まってきている」や「栄養バランスをとるためには、楽しい給食でなければ…」、「よい食習慣は毎日の積み重ねによるもの。家庭との連携を図った、一貫した指導が必要」との意見が出されました。

学校給食に一層のご理解を

岩室村学校・家庭・地域連携推進協議会　会長　成田忠雄

平成五・六年度の二年間にわたって委嘱を受けました「学校給食における学校・家庭・地域連携推進事業」も、関係の皆様の熱心な取り組みのお陰で、大きな成果を挙げ、無事任を終わろうとしています。

いろいろご尽力いただきました皆様に、深く感謝いたします。

三月で委嘱期間は終わりますが、これまでの実践の中から、継続できるものについては引き続き取り組み、子供たちの丈夫な体づくりに役立つ喜ばれる学校給食にしていきたいと考えております。

これからも、村民の皆様から食生活への関心、学校給食についてのご理解を深めていただきますようお願いいたします。

地域部会の取組

栄養のバランスのとりやすい〝日本型食生活〟の良さを、学校給食を通して地域全体から見直してもらえるような、様々な取組を行いました。

①料理教室…親子や寿学級生と一緒に料理を作りながら、健康になるための栄養について楽しく学ぶとともに、輸入米を使った料理にも挑戦し、輸入米の調理方法や安全性についての理解を深めた。

②郷土料理・伝承料理講習会…地域の郷土料理や伝承料理を通して地域の食文化を見直すとともに、学校給食へも取り入れる。

③試食会…地域の人たちから学校給食への関心を高めてもらうため、学校や給食センターを通して試食会を行った。

④農業祭…農業祭の会場で学校給食展を実施し、一般の村民の学校給食への理解を高めた。

⑤その他…地元で取れた「そら豆」を給食に出すことで、子供たちに地域の産物の一部を知ってもらうことができた。

◇　◇　◇

地域の人に学校給食への関心を高めてもらうため、料理教室や試食会など、誰もが気安く参加できる場を積極的に工夫していくとともに、学校給食に地域の産物をもっと取り入れられたら…と感じました。

▶婦人会の皆さんが給食センターで学校給食を〝試食〟

調査広報部会の取組

児童・生徒の家庭における食生活の実態把握の調査活動を行うとともに、本事業の趣旨を広く村民の皆さんに理解していただくため、次の広報活動を行ってきました。

①調査活動

二度にわたり家庭における食生活の実態や学校給食に対する意識を調査し、その調査結果から次のような問題点が明らかになりました。

・テレビを見ながら食事をしている家庭が約60％

・「いただきます」など、いつも食事の挨拶をしている家庭は約34％

・栄養バランスのとれた食事にしなければならないという意識はあるが、知識の不足から、実際の行動として現れていない家庭が多い。

②広報活動

本事業は地域をも含めた事業であり、広く一般村民からも事業の趣旨を理解していただくことが必要不可欠であるとの認識から、各種の広報活動を行いました。

・本事業のPRや各校の特色ある給食事業の紹介、健康作りと食事についての啓発記事などを載せた広報紙「多宝」の発行。

・食事時のしつけについてをまとめた「食事のマナー集」の発行

・給食だより（献立表）を充実するとともに、栄養指導を主とした給食だより「パクパク」を発行。

・ビデオ「給食センターの一日」の作成。

◇　◇　◇

今後、実態調査で明らかになった問題点がどの程度改善されたか、再度アンケート調査を実施したい。

▲広報紙「多宝」と「食事のマナー集」